

# 千葉県森林インストラクター会 会報 2003.7(No.5)



## 広げよう 緑の大地 豊かな心

### 新たなみどりづくりの出発点「第54回全国植樹祭」

5月18日(日)、天皇皇后両陛下をお迎えして、第54回全国植樹祭が千葉県で開催された。開催に向けて千葉県では、里山再生プロジェクトの実施、千年の森づくり事業の推進、みどりのホームステイ、地域植樹祭の開催、ちば・ふれあいのみどり100選の選定、みどりの健康づくり、全国林業後継者大会など、さまざまな準備を行ってきた。千葉県森林インストラクター会も、日本樹木医会と共催で久留里城周辺の国有林を舞台に「子ども樹木博士」を開催した。こうして「みどりづくり」の輪を広げながら迎えた「第54回全国植樹祭」をレポートする。

#### 人と自然との共生めざす

全国植樹祭は、戦中・戦後の森林伐採などによって荒廃した国土の緑化をめざし、昭和28年の山梨県を皮切りにスタートした。千葉県では昭和28年に海岸砂防林の復旧をめざして、富津市・富津岬で「海岸砂地造林」をテーマに第4回植樹祭が開催されている。こうして、国土緑化運動を盛り上げてきたのである。

今回の第54回全国植樹祭では、新時代にふさわしい「人と自然との共生」をめざして、かけがいのないみどりを次の世代に確実に引き継ぐことを宣言している。その概要は次の通り。  
テーマ：広げよう 緑の大地 豊かな心

開催日：平成15年5月18日(日)

主催：社団法人国土緑化推進機構 / 千葉県

開催地：主会場(記念式典・植樹) = 木更津市



千葉県の木マキをお手植えになる天皇陛下と木更津市の木ツパキをお手植えになる皇后陛下(共同通信社)かずさアカデミアパーク / 第二会場(植樹) = 君津市清和県民の森

参加者：主会場 6700名 / 第二会場 700名

当会から10名が招待者として参加

未来を担う世代が活躍

式典は9時50分のマーチングドリル隊のオープニングアトラクションからスタート。会場の大型スクリーンには千葉のみどりの映像が流されている。そして今大会のためにつくられた『菜の花星座』の合唱。さらに招待者も含めた合唱訓練である。こうして天皇皇后両陛下をお迎えする準備が済み、記念式典がスタートした。

式典の特徴は、かけがいのないみどりを引き継ぐべき若い世代が活躍していたこと。たとえば、式典の司会は小学生・中学生・高校生・大学生が行っている。また、高校のマーチングドリル隊や吹奏楽隊、少年少女合唱団などが、式典を盛り上げた。さらに、みどりの少年団やボ



「大樹くん」も登場、会場を盛り上げた  
ーイスカウト、ガールスカウトがさまざまなサ  
ポートを行っていた。

当会の町原会長は、「この式典には『林業後継  
者』と称する数十名の若手グループがいたが、  
彼らこそ今日の本場のVIPだろう」と、当日  
の印象を語っている。

ユニークなのは、皇后陛下がお書きになった  
絵本を素材（詞）に、さだまささんが曲をつ  
けて『はじめてのやまのぼり』を演じたこと。  
さださんが自ら指揮をとっての熱演に、皇后陛  
下は笑顔でお応えになっていた。

そしていよいよメインイベントの、両陛下に  
よるお手植えとお手播き。天皇陛下がマキのお  
手植えとマキ・シラカシのお手播きを行い、皇  
后陛下がツバキのお手植え、ツバキ・スタジイ  
のお手播きを行った。

イメージキャラクターの「大樹くん」も登場  
し、第二会場と結んで行われた記念式典は、こ  
うして無事に終了した。

第二会場では7名がサポート

第二会場の清和県民の森では、森づくり(ユ  
ニバーサルデザインを取り入れた施設整備と記  
念植樹) イベント(森のハイキング、森のク  
ラフト教室、森のネイチャーゲーム教室、森の  
音楽会)が行われた。FICからは7名がスタ  
ッフとして参加。森のハイキングのインストラ  
クションを行った(小池さんのレポート参照)。

心配された雨もあがり、爽やかな気分で新た  
なみどりづくりへの第一歩を踏み出した。(翔)

FICからの参加者(招待): 湯上 昇・遠坂 弘・  
町原 亨・廣島真知子・萩埜恵子・平尾信三・関 隆  
夫・関根 亨・海野知子・鳥海 翔(名簿順・敬称略)



グリーン・メッセージ「広げよう 緑の大地 豊かな心」

## 全国植樹祭・清和県民の森ハイキング

小池 英憲

入念な準備を行ってスタート

我々インストラクター7名(小林正幸・中野  
達也・和波牧子・小池英憲・野村昭夫・大沼綜  
助・元岡真也:出発順、敬称略)は8時20分  
小雨降る第五駐車場に集合。これから始まる大  
きなイベントに対する緊張感の中、作戦会議を  
行いました。元岡さんからは、ルート沿いの植  
物を樹種特性と写真を入れて纏めた資料を頂き  
ました。作戦会議の主なテーマは、雨対策です。

8.40分作戦会議終了、10.00分まで時間があ  
りますので、早速集合場所のロッジ村に向かっ  
て勉強会です。(予定変更の場合の逆ルート)

あの木は翼があるからヌルデ、幹に棘がある  
からカラスザンショウ、クワの葉に比べて、葉  
が照り葉で葉脈が葉の先端で繋がっているのが  
コウゾ、実が猛毒のドクウツギ、谷筋に多いフ  
サザクラ、幹が白いシラキ、木の幹が硬いカマ  
ツカ等、本番前と言うのに話に熱が入ります。  
7人の優秀なインストラクターが集っても判断  
できない木があり、その前はなるべく早く通り  
過ぎようとか、遠くから眺めて説明しようとか  
傾向と対策も話し合いました。

10時前に集合場所に到着、前回お会いしてい  
るリーダーの県職員の刈米さん、県民の森の和  
田さんと合流、刈米さんから本日は天候が悪い  
が正規のルートを歩きますと聞き一安心。一番  
大切な? 弁当を貰い参加者の到着を待ちます。

10.20分頃、県職員の引率でハイキング参加

者到着。トイレ休憩。お弁当配布後、ロッジ村は他のイベントで込み合っていたので他へ移動。

10.40分頃、参加者、県職員、県民の森職員、インストラクターの紹介及び散策ルートの説明の後、8班に分けて11時前に1班から3分程度の間隔で出発。

私は4番目で、県民の森のおばさんが先頭で道案内。7名と少数精鋭のグループで県職員の方がしんがりをお勤めしてくれました。参加者の中にハリギリ、トベラ、アセビなど樹木名がスラスラと出てくる方や草本に詳しい方が参加されていて、「お主できるな」と感じながら私の専門分野に引き込む事を考えながらスタートです。幸いな事に、出発の前にお金になる庭木が専門で、お金にならない山の木は趣味程度ですと自己紹介しましたので、お互い気を使って助けてもらいました。

案内のおばさんが山主のような顔で、見え隠れしながら先導してくれるので時間の方は安心して説明に夢中になっていたら中間点の食事場所に12時前に到着。

参加者に食事は20分程度で済ませて下さいと、連絡あわてて食事を取る。お弁当は混ぜご飯と色々のおかずが入っていて、美味しかった。

いざ、出発と思ったが御夫婦が来ない。担当者が探しに行ったら慌てて食事を済ませたらしく、お茶を飲みながらスタート。もう少し時間に余裕を持てれば、美味しいお弁当を楽しんで食べることができた物と反省。また、食事した展望台を降りて、振り返ると垂直の切り立った岩の上で食事した事に気づき、地震があったら大変でしたねと皆で胸をなでおろす。

参加者の声に責任が果たせた思い

帰りは下りが多く、皆のお腹も膨らんで雰囲気も和み、寺嶋さんお得意の「杉は木偏に三で葉をよじると三列に並びますよ」と説明すると皆に受ける。調子に乗ってアオキの葉で草履を作り披露する。まじめな事も話さないといけないと思いサンショウ、イヌザンショウ、カラスサンショウノ違い、植物の名前を覚える手段として香りをヒントにして下さいとヤブニッケイ、クロモジノ話をする。

13時前に最終地点に、無事到着。参加者から



清和県民の森の植樹風景

「色々な場所に散策に行きますが、清和は始めてで、素晴らしい森ですね」と言ってもらって責任が果たせ思いがした。

解散後、朝停めた駐車場まで「なるだけ脇目を振らないように」と申し合わせながら歩いて移動。とは言いながらジャケツイバラ、ヤブデマリ等の植物が目につくと立ち止まる。途中、聞きなれた声が聞こえると思ったら、望月さんがボーイスカウト相手に得意の植物の話に大奮闘。それを横目で見ながら駐車場へ急ぐ。

13.30分頃解散。楽しい1日でした。

私が考えた心得(反省を含めて)

- ・ 人から名前を教えて貰っても最後は自分の責任で調べる。
- ・ 植物図鑑を持って行って確認する。
- ・ 参加者に詳しい人がいたら、その人に説明してもらう。
- ・ 自分の得意分野を前もって参加者に説明しておく。
- ・ 説明しているインストラクターが最も楽しんでいる事を自覚しておく。

#### 千葉の海の幸、山の幸一杯のお弁当



千葉県立衛生短期大学が献立を考えた全国植樹祭のお弁当は、千葉県ならではの海の幸、山の幸が一杯でした。お品書きは、筍ごはん、メカジキの照り焼き、牛肉とごぼうのしぐれ煮、若鶏の竜田揚げ、かつおの角煮、厚焼きたまご、野菜の炊き合わせ、ゆで落花生、漬物、菜の花・鉄砲漬、さつま芋の甘煮。美味しかった!!

## 第9回千葉県森林インストラクター会定時総会

平成15年4月26日(土) 船橋中央公民館にて、第9回千葉県森林インストラクター会定時総会が開催された。平成14年度の事業報告、決算報告、監査報告に続いて、平成15年度事業計画、予算案の審議、役員選出された。こうして、正式に新年度の事業がスタートした。

### \* 会長挨拶要旨

年々会員数も増え、かつ能力の高い人がたくさん現れて、会も成長の一途をたどっている。

会の財政も少しずつ充実している。とはいえ、各種活動の参加費を下げても人数の参加を募ると、会の知名度アップにはつながるが、財政上の負担がきつくなるという悩みがある。いま会員の能力を發揮させるべく、いろいろ検討している。若い人や勤めのある人はなかなか平日には参加できない。そういう人たちが土日に集って、チームをつくり企画をドンドン立ててもらいたい。



## \* 平成14年度事業実績 \*

### 《もりこん》

日程	参加人数	話題提供者	話 題
4月25日	9名	野間 元彦	森の生活第5話・エゾシマリス
5月16日	13名	町原 亨	標高3600mの森林限界
6月27日	17名	野間 元彦	県内自生木本植物388種について
7月25日	13名	町原 亨	年表で見る日本の森林
9月26日	12名	國安 哲郎	滝野中学の総合学習の報告
10月24日	9名	寺嶋 嘉春	絵と写真で見る日本林業の変遷
11月20日	18名	石井 桃子	『話の種』になる種子の話 出版記念
12月14.15日	14名	関 隆夫	炭焼き研修と忘年会
2月20日	12名	鳥海 翔	野外安全を考えるヒント
3月19日	11名	遠藤 良太	ヒメコマツの現状と保全

### 《昼講座》

日程	人数	講師	テーマ
4月10日	37名	遠坂 弘	房総半島の森林ウォッチング
4月24日	28名	石井 桃子	同・野外実習「中央博・生態園」
5月8日	34名	伊藤 敞	森林(もり)の見方
5月22日	35名	遠坂 弘	同・野外実習「明治神宮の森を訪ねる」
6月12日	31名	山田 寛治	里山・水辺の植物
6月26日	26名	山田 寛治	同・野外実習「21世紀の森を訪ねる」
7月10日	25名	町原 亨	歴史から見た日本の森 part3
9月4日	40名	遠坂 弘	きのこ入門
9月14日	25名	平尾 信三	同・野外実習「きのこ探し」
10月2日	37名	石井 桃子	森林を支えるブナ科の樹木
10月23日	31名	渋谷 孝子	森林に親しむコツ
11月6日	30名	町原 亨	森と水の話
11月20日	31名	湯本 信康	海を育み牡蠣を増やす森
12月4日	29名	遠坂 弘	竹の話
12月4日	29名	小林 正幸	竹細工「花器づくり」

## 《野外講座》

日程	人数	チーフ	担当	場所
5月15日	32名	町原亨・村木隆義	湯本・菅野・大沼	筑波山
7月17日	32名	湯本信康・菅野興文	町原・村木・山田	カヤノ平と志賀高原
9月29日	49名	寺嶋嘉春・國安哲郎	鈴木・和波・関・遠坂・望月	権現の森と笠森自然林
11月27日	24名	望月力智・萩野恵子・御須裕子	國安・湯本	鹿の森の観察
12月5日	79名	町原亨・菅野興文	國安・廣畠・御須・小林・和田・大沼・湯本・望月	秋の東大千葉演習林
2月27日	38名	國安哲郎・和田晟	望月・湯本・菅野・高德	東大千葉演習林

## 《定期活動》

本埜村滝野中学校：里山を活用した総合学習指導

県上総林業試験地：林業体験研修

## 《その他》

期日	依頼元	人数	内容
4月20.21日	東大演習林	12名	東大千葉演習林公開日パトロール協力
4月28日	千葉県	1名	千葉県緑の祭典
6月1日			千葉県森林インストラクター会会報創刊号発行
6月5日		5名	八千代市大和田西小総合学習指導
6月8日		17名	清和県民の森研修会
8月8日	樹木医会共催	25名	子ども樹木博士認定事業
11月9.10日	全国森林組合連合会	18名	森林環境教育全国シンポジウム
11/23.24.30			
12/1	東大千葉演習林	16名	東大千葉演習林公開日パトロール協力
2月			ホームページ開設
3月22日	全国森林組合連合会	5名	森へ行こうよフェア（国際展示場）

## \* 平成15年度事業計画 \*

## 《もりこん》

森に親しむ懇談会年12回開催

森に関心のある一般市民との交流を兼ねた研鑽会

## 《県上総試験地作業》

林業の基本的知識と技術の習得

## 《野外講座》

日程	目的地	テーマ	人数	担当者
4月2日	伊予が岳と大山千枚田	南房総の自然	22名	遠坂・野間ほか3名
6月21日	清和県民の森	初夏の房総丘陵	42名	望月・和波ほか4名
7~9月	奥那須	冷温帯林	33名	湯本・和田ほか3名
7~9月	富士山	森林垂直分布	33名	町原・和田ほか3名
10月	久留里城の森	暖温帯林	33名	國安・小池ほか3名
12月	東大・札郷堂沢周辺	紅葉の房総丘陵	60名	町原・遠坂ほか6名
04年2月	草深の森	森づくり体験	42名	菅野・小林ほか4名

《昼の講座（前期）》

日程	テーマ	講師
4月17日	木の話	町原
4月24日	野外実習「春の花見川界限」	遠坂他
5月8日	自然との共生	石井
5月22日	同・野外実習	石井他
6月5日	天然の薬と毒薬	平尾
6月19日	同・野外実習	平尾他
7月3日	森と林	湯本

《総合学習事業》

本埜村滝野中学校：里山活用の総合学習

《新担当推進活動》

機関紙発行、ホームページ更新、安全管理、週末野外活動G

《清和県民の森・F I Cの森》

会員の活躍フィールドとして確立するための取り組みを開始する

《研修事業》

トピックへの対応、救急法の再履修、環境問題との関わり方

《受託事業》

《その他》

全国森林インストラクター会研修会開催

テーマ：「海の見える山の森で学ぼう」

会場：東大千葉演習林中心

平成 15 年度役員

会長	町原 亨
副会長	國安 哲郎
幹事	菅野 興文
	寺嶋 嘉春
	望月 力智
	遠坂 弘
	野間 元彦
	関根 亨
	海野 友子
	和田 晟
監事	鳥海 翔
	村木 隆義

菅野事務局長より新役員候補が推薦され、上記の各氏が承認された。なお、候補の和田氏の辞退があり、代わり的人選は幹事会に一任された。

平成 14 年度決算並びに平成 15 年度の予算については割愛する。

活動報告(2003.4~7)

総合学習事業（担当幹事：國安）

滝野中学校「里山学習」準備

●日 時 平成 15 年 4 月 4 日（金）  
10：00～14：00

●場 所 滝野中学校学習林、校長室

●参加者 滝野中学校 青山校長、新 1 年生担当新任教師 3 名、森林インストラクター（講師）野間・湯本・遠坂・國安

現地・打合せ

・田んぼの水路では、アズマヒキガエルのオタマジャクシが黒々と卵塊を脱するも動かず。

・歩経路沿いのツクシ・スギナ、オオカマキリの卵塊など、生徒たちにどう気づかせるか。

・学習林内のユリ科草本（ナルコユリ、チゴユリ、ホウチャクソウ、キンランなど）の芽生えをどのように観察するか。

・ヒサカキの花の匂いただよう。生徒の反応は？

・ウワミズザクラの実生多数。野生のサクラ類の開花を皆はどう感じるか。

・12 時、エゴノキ広場で昼食中、青山校長が新任の 1 年生 3 クラス担当（女性）教師を引率して林内を案内しながら合流。双方紹介、弁当昼食を共にする。自然観察等に理解のある先生方と意気投合、今後の展開が楽しみ。

・竹笛準備・・・1 年生 83 名分、予備含め 90 個を用意。講師 4 名で、アズマネザサ 1 本に篠笛 10 個分ほどの印（1 個約 10 cm）をつけ、吹き口から 4 cm のところに小鋸で刻みを入れ、



ナイフで削り、竹皮リード（アズマネザサの表皮）を別途作成。

竹笛準備中の講師

・学習日当日、新1年生は、鋸引き、リード入れ、音だしをすることになるが、試作品の笛を鳴らしてみると、近くのキジが声を合わせるように鳴くには思わず笑ってしまう。

・帰途、校長先生の案内で、学習林隣接の公社用地斜面にアマナ群生地の一斉開花を見る。

(報告：國安)

### 滝野中学校「環境(里山)学習」実施報告 [前期]

本埜村立滝野中学校の平成15年度環境学習指導計画(前期)にもとづく、森林インストラクター(特別非常勤講師)による里山学習指導を、以下4月10日から3日間、全校生徒を対象に実施した。

この学習指導は昨年度に引き続き行われたもので、FICからの講師はそのまま継続したが、学校側の担任教師は、青山校長を除き教頭以下全員交代し、指導上の継続・発展性にはやや欠けたものの、ほとんどの教師が自然観察をふくむ環境教育に熱心で、校長を中心とした今後の取り組みに期待がもてた。

今回指導のポイントは、学校側として「講師の皆さんから教え込むというより、生徒が里山の自然に触れ、自分で何かを見つけ、講師に質問したりして自発的に学ぶようにしむけてほしい」との要望もありこれを基本にしたが、短時間に1班20名前後の生徒の指導という条件下ではかなり難題であった。

#### 【学習指導の内容】

15.4.10(木)(8:40~10:20)2年生A・B組(64名)(10:40~12:20)3年生A・B組(68名)

各3班編成、講師：野間・湯本・國安、教師：校長・教頭・担任各1名、本埜村五十嵐教育長も参加。2年生は、全員校庭に集合し、各班担当の講師紹介。昨年より2校時短縮され、1班約20名となる。

各班交錯しないようコースを変え、1班はまず直接学習林内へ、2班は左回り、3班は谷津田、水路の生物観察からとする。今年は春の芽生えがおそく、ヤマザクラがやっと咲いた状態。生徒の関心はスミレ類など野草の小さな花、ア



マガエル、ヒキガエルのオタマジャクシ、カナヘビ、クモ類など動くものに向く。ちょうど咲いたアケビの雌花、雄花の違いに気づいてもらう。各班とも林内の広場で木の実(ヒノキ、エゴノキ、コナラ、クヌギ、フジ、ノウサギの糞など)拾いを促し、ようやく皆を集中させる。

3年生の各班をコース途中で迎え上述コースをたどる。各班20人を超えまとめるのに苦労。

15.4.11(金)(8:40~10:20)1年生A組(28名)(10:40~12:20)1年生B組(28名)各3班編成、講師：野間・遠坂・國安、教師：校長・担任各1名・付添い1名。

里山学習が初めての新1年生は、昨年同様各班10人以内の編成で、教師・講師がより密接に指導できるよう配慮された。講師も生徒に森の恵みを感じてもらうため、アズマネザサの竹笛作成を用意し、観察の最後にエゴノキ広場で最終工程(工作鋸での切り取りと竹皮のリード挿し込み)を体験してもらうことにした。

新1年生のほとんどは、都市部の小学校3年生から新住民として滝野小学校に転校してきて、全員隣接の中学校にあがったもので、一部の生徒を除き自然観察の経験は少なかったようだ。だが、田んぼや畦道の野草の小さな花や、真っ黒にかたまっているオタマジャクシに歓声をあげ、林内ではシュンランの花の匂いをかぎ、ウグイスカグラの可憐な花、アケビの雌花、雄花などをルーペで熱心に観察。新葉が出たばかりのハナイカダの不思議な花芽に気づくなど、新鮮な感覚と集中力をみせていた。

最後に竹笛作成に取り組む。竹の長さ、太さ、リードの幅、したがって音の高低もそれぞれ、とにかく全員鳴ってよかった。リードを自分で



アケビの花を観察する生徒たち

工夫してつったり、ドレミファを合わしたり、皆満足の様子。

15.4.12(土)(8:40~10:20)1年生C組(27名)班編成、講師、教師前日同様。

雨天順延も心配されたが時間内降雨もなく、昨日と同要領で無事終了。みんなに再会を約して解散。

#### 【今後の対応】

総合学習における課題の選択方法、学習時間の配分の変更などに対応し、今後の指導方法として、生徒の集中力を高めるためネイチャーゲームの要素を採り入れたり、担任教師とタイアップした指導の可能性の追求など、後期の学習指導に向けていろいろ取り組んでいきたい。なお、今回の学習実施に伴う生徒や教師の反応と対策等については、学校のアンケート結果をふまえて後日報告の予定。(報告：國安)

#### 滝野中学校里山学習林見回り(5/15)

日時 平成15年5月15日(木)10:00~13:30

場所 滝野中学校里山学習林、校長室

参加者 滝野中学校青山校長、森林インストラクター(講師)湯本・遠坂・國安(オブザーバー)今井

現地見回り

・朝から雨。途中の団地造成地にヤセウツボの花が目立つ、ハリエンジュとまぎらわしい羽状複葉のクララがあちこち。

・年2回刈り払っている企業庁残地の斜面等には、今ノアザミがいっせいに咲き、黄色い花のコウゾリナ、ウマノアシガタなど。フデリンドウの花はすでに散り萼だけ残る。

・雨天にもかかわらず、上空でヒバリが一生懸命さえずる。セッカの鳴き声も聞く。

・畦道はきれいに刈り払われ、田植えの終わった田んぼでアマガエルよく鳴く。水路は水量も多く、オタマジャクシなどの姿あまり見えず。残ったスギナ群の中に穂先にツクシのついたイヌスギナ発見。

・学習林の入り口に、「本埜村立小・中学校 学習林」の標示。最近、林内に立ち入って、草花や木、アケビのつるなどを持ち去る人が後を絶たないため、学校が里山の保全のためとして設置に踏み切る。

・林内にあった大株のシュンラン根こそぎ持ち去られる。アケビのつるを採るだけでなく、根元に近いところから伐りあとで盆栽の木に仕立てるためかと思われるような被害の跡。大きなサルナシも同様。

・学習林を縄張りにするウグイス今日もすばらしい声で鳴く。メジロの声も。雨に濡れた林内も風情あり。開花すみのサワフタギ、ニガキ、これからのガマズミ、エゴノキ、マユミ、青い実をつけたヤマコウバシ、ウワミズザクラ、クマヤナギ、チゴユリ、透きとおる赤い実のウグイスカグラなど。

・少し明るくなった林内には、チゴユリやミヤマナルコユリ(今つぼみ)の群落ができはじめ、エゴノキ広場を含めあちこちにキンランの芽生え多数。ウワミズザクラの芽生えの群生に思わず歓声。

・雨も思わぬ効用、つやつやと新緑が光り、濡れた木肌を見てアオハダを発見、本埜村教育長の植えたエノキ(オオムラサキのため)がほぼ活着したことを確認。

・ラン科と思われる葉の草本を発見。クモキリソウかジガバチソウか、同定は次回に持ち越す。

打合せ

・雨天のため学校内で昼食後、校長室で青山校長から、学習林の看板設置の経緯等を聞き、里山の保全・里山学習の大切さについて、学校、PTA、地元民などが一体となって取り組む必要性を話し合う。

・次回6月の学習林見回りは、6月14日(土)とする。土曜日は、森林インストラクターと一

緒に学級担任の教師も自由に参加できることから、この日を選んだもの。

生徒の反応(4月の前期学習)

・里山学習について「杜の里」(滝野中だより)5月号に掲載された1年生の感想文の一部を以下紹介。

<新城 万葵子>オタマジャクシは何で集まって生活するのかなと思いました。アケビはすごくきれいな花で、雌しべと雄しべがあって、受粉すると実がなると、インストラクターの方が教えてくれて、少し興味を持ちました。里山には、たくさんの種類の植物があるなんて思っていなかったのでびっくりしました。発見した植物などについて、もっと調べたいと思いました。

<砂子 賢太郎>里山を歩いて色々な植物をみて、里山は自然が豊富なんだなと思った。あと木につるが巻きついていたりしているのを見た。あと竹で笛を作った。少し難しかったけど、やってみたら上手に鳴ってよかった。もっといろんなもので笛を作ってみたい。いろいろな植物の名前が知りたい。

・以上のほか1年生の19名が、新鮮な感動といずれも里山に大いに興味を持つたと感想を述べている。

### 滝野中学校里山学習林見回り(6/14)

日時 平成15年6月14日(土) 10:00~15:00 曇り

場所 滝野中学校里山学習林、校長室

参加者 滝野中学校青山校長・菅原先生、森林インストラクター(講師)湯本・遠坂・國安(アシスタント)海野

#### ● 現地見回り

・学習林に至る草地のコースは、管理する企業庁が全面を刈払っており草花1本も無く残念。ただ、地面にへばりつくようにクサボケの実が色づいて残っていたのは珍しかった。

・水田には農業用水弁から多量の水が取り入れられ、水路の水はやや濁って水生動物の観察には不向きだったが、水田などに小さなニホンアマガエル・アカガエルやトウキョウダルマガエルがさかんに飛び込む。

・水路沿いのクリの花にシロテンハナムグリのほかコウチュウの仲間などが多く集まる。ほかに、モンシロチョウ、ルリシジミ、ダイミョウセセリ、ハグロトンボ、アオハダトンボ、翅に白点のあるカワトンボ?など多数。

・畦道にキツネアザミ、水路斜面にはニガイチゴが赤い実をつけ試食するとやはり苦味が残る。コウゾの実はまだ青く、クマヤナギの実は赤みを増す。ウグイスが近くで鳴き、セッカのさえずりも聞こえる。

・学習林の入り口付近には木柵を張り巡らし、看板とあわせ一般人の入林制限を明示している。その後1年生各クラスが、担任教師の指導により林内の観察を続けており、「私の木」と称して「学年クラス氏名」を書いたビニールテープがつけられてあった。継続観察の今後が楽しみ。

・毒性の植物として特にツタウルシを知ってもらふ必要があるが、よく似たツタ(ナツツタ)との見分け方がむずかしく(特に幼木の葉)生徒に対しては、とりあえず両方に触れないように指導しようということになる。

・林内のアズマネザサなどを刈り払い整理した結果、キンランのほかラン科草本などの芽生えを多く観察できるようになり、観察路、広場以外の立ち入りに神経を使う。花をつけたクモキリソウの場所は不明。

・ウワミズザクラ、サンショウ、ハナイカダには青い実、ウグイスカグラの赤い実は食べ頃。ムラサキシキブはちょうど花時。林内にアワフキムシの仲間が今さかんに唾液様の泡をふいて巣を作っている。

・林縁では、足元のミヤコグサ(黄花)、黄色斑紋葉(ウィルス病)のヒヨドリバナ、不明のキノコ類が話題に。

・昼食は、林内よりは蚊の少ない風の通る田んぼ脇でとる、菅原先生ご持参の美味西瓜(富里産)をご馳走になる。食後、本埜村夏の「里山観察会」の下見を兼ね、学習林隣接の道路沿いに当日集合場所まで歩く。

・沿道のクヌギ、コナラの小さなどんぐりの実、ジョロウグモやゴミグモの円網の中心についたごみや食べかす、立派なみのむし(オオミノガ)など発見。マント植物を含め観察会の材料に。

打合せ

・学校側では、環境学習の中で学年によって

植物、昆虫、鳥のように専門分野を分け、教室内の授業（図鑑、インターネット等）では得られない実地の勉強を、里山などで直接指導していただきたいと考えており、森林インストラクターの皆さんのなかで、例えば「鳥」について詳しい方など対応可能でしょうか、とのことであった。

・FICには鳥の専門家とまではいえないが、学習のお手伝いの可能な人はいるのでご相談に応じたい。ただ、森林インストラクターとしては、それぞれ個別の分野を掘り下げることより、森林という大きな生態系のなかでとらえ、理解してもらいたいと考えており、学校の指導方針とのすり合わせも必要でしょう、との主旨を伝えた。

・次回7月の学習林見回りは、7月26日（土）。参加者は、講師4名全員、アシスタントとして海野・今井さん、学校側は、青山校長・菅原・石橋先生の予定。（報告：國安）

### 滝野「夏の里山観察会」結果報告

日時 平成15年6月21日（土）9:00  
～11:30 晴れ 28

場所 滝野小・中学校里山学習林とその周辺

主催 本埜村教育委員会（生涯学習課）

参加者 一般応募者26名（うち小学生2～5年生21名）、本埜村教育長、滝野中青山校長、エコモの会（本埜村の環境を守る会）インストラクター1名、教育委員会神寄係長ほかスタッフ2名、講師（森林インストラクター）遠坂・湯本・國安、計35名

#### 実施内容

・この催しは、昨年に引き続き地元民を対象に本埜村教育委員会が企画する「わくわくふるさと探検隊」の第1回行事で、第3回の「秋の里山観察会」、第5回「冬の里山観察会」とも、滝野中講師の森林インストラクターが講師を担当することになっている。

・今回は、これまでより参加者が多く滝野地区（新住民）の小学生が中心で、口コミで参加者が増える傾向にあることは心強かった。3名の講師は、小学生中心に保護者を含め7～8人の班編成で行動。



学習林前の水路・田んぼ

・学習林に至る里道、田んぼ、畦道、水路沿いの動植物の観察に約1時間をかけたが、子どもの興味はもっぱら昆虫など動く小動物に集中、クリの雌花やクヌギのどんぐりの子にはさほど注目せず。

・水路では足と尻尾のついたオタマジャクシ、変態したばかりのニホンアマガエルやニホンアカガエルがさかんに田んぼや水路に飛び込むのを見て喜ぶ。鳴いているのはトウキョウダルマガエルか。

・水路沿いにハグロトンボ、アオハダトンボ舞う。田んぼにノシメトンボ、シオカラトンボなど。

・学習林に入って4～5分は涼しく感じ、森の効用などを話すが、半袖シャツ半ズボン、水筒なしで参加する子どももいて、虫除けスプレーの効果も無く子どもの手足は蚊に追いかけられ落ち着かず。

・林内では、ミミズ、オサムシ・ヤスデの仲間、コガネムシ、カナヘビ、カメムシの仲間、小さな不明のキノコ、ヒノキ・スギの球果やエゴノキの実などに興味を示し、いつもながら目線の低さを感じる。

・学習林の観察約1時間、林外に出て主催者から冷たい飲料水、飴などが配られ一息つき、自由解散。

・帰途の道すがら、林縁ではキチョウ、ルリシジミなどシジミチョウの仲間、カノコガ、カナブン、ミノムシ、ゴミグモほかのクモ類などを観察、コウゾの赤い実を食べ、子どもたちは終始熱心であった。

今後の予定

- ・ 第2回 ホタル観察会 7月12日(土)
- ・ 第3回 秋の里山観察会 10月25日(土)
- ・ 第4回 野鳥観察会 12月13日(土)
- ・ 第5回 冬の里山観察会 1月24日(土)  
(報告: 國安)

**昼の講座 (担当幹事: 遠坂)**

**「木の話」**

テーマ 「木の話」  
 実施日時 15・4・17 10:00~12:00  
 会場 市川市民会館 第一集会室  
 講師 町原 亨  
 受講者 40名  
 庶務担当 遠坂・和波・海野 オブザーブ 湯本・増田

レジュメ (項目のみ)

「木の生長。セルロース・ヘミセルロース・リグニン。心材化。あま皮(篩管部) 樹皮とコルク。木は腐る。木を食べる微生物。木の模様(年輪・木目・木理・木肌の色。)木の強さ(幹・木の重さと強さ・比重・細胞壁はなぜ強いのか・柾目と板目・木は軽い割には強い) 木と水の関係(含水率・割れ・木材はなぜ沈まないか)その他の長所。」

**春の花見川界限の下見**

目的 観察ルート・タイムスケジュール・役割分担等の確認  
 実施日時 15・4・16 9:30~15:30  
 参加者 遠坂・野間・山田・和波・渋谷・御須・和田・菅野・海野・中野



「木の話」

**春の花見川界限を歩く**

実施日時 15・4・24 9:30~15:00  
 コース 大和田駅 新川沿い 花島公園  
 柏井市民の森 八千代台駅  
 受講者 36名  
 講師 野間・山田・和波・渋谷・遠坂・中野  
 オブザーブ 小橋・増田

大和田駅集合。5班に分かれ新川沿いに下り花島公園まで。市街地の真っ只中とはとても思えない鬱蒼たる兩岸の樹林はいまや木々の芽吹きで萌黄色にけぶりその間をゆったりと川が流れ水鳥が遊び野鳥が囀りサイクリングロードの脇には山野草がいっぱい。

兩岸の樹林層の違いを見比べながら進む。途中柏井橋から少し上流の標高30m辺り分水界地点で山田講師が「江戸期から昭和期に至る花見川疎水路開削の歴史」について説明。

花島公園で昼食休憩。花見川団地に隣接の柏井市民の森は散策する人影も殆どなく自然度の高い雑木林が維持されていることに驚き。野間・山田さんによれば「日本人は森の散策が嫌いなのではないか」との穿った見方も。この森は山野草の宝庫で稀少種については触れないことにし参加者が気づいた場合は保護の大切さについて話し合った。ここで野間講師より「花見川周辺の土地利用の変遷」について説明。

水鳥 キョウバシロ・カウ・カイツリ・カガモ・コガモ  
 山野鳥 キジ・ルビトガラス・ヒヨドリ・ホジロ・キバトア  
 オジ・カマキリ・ムクドリ・ツバメ・ウグイス・メジロ・コジユキ・コ  
 ゲラ・シジュウカラ・加など  
 山野草 ムラサキマン・ジロホウエンゴサ・フサバソウ・ウシホ  
 ヲ・ハコバ・ヤブシラミ・クサノオ・ウツリソウ・シロバナタンポポ・



「春の花見川界限」

ツルカノコウ・ウマミツバ・ヒトリシズカ・トリカブト・オハクワビ・イヌヨウモ・ホトトギス・キンラン・アマトコ・チゴユリ・ナルコユリ・ヤマナルコユリ・ホトチャクソウ・ヤマユリなど  
 樹木 ウスミズグサ・クサ・イサグサ・ウキ・ウグイサガラ・ヨモミ・ムクロジ・ゴマキ・アヒ・クワ・エゴノキ・カマツカ・サワタリ・ハナハダ・ニガキなど

**「自然との共生」 - 里山の生き物たち -**

実施日時 15・5・8 10：00～12：00  
 会場 市川市市民会館 第一集会室  
 受講者 35名  
 講師 石井桃子  
 庶務担当 海野・和波・渋谷・遠坂 オブザーブ 湯本・小橋・増田・町原

まず参加者に自分自身が考える里山のイメージを絵にしてもらいその上で里山の要素を考え、又そこに棲む生き物たちの生存空間を当てはめて考えてみた。全くの大自然でもなく、大都会でもない、長い時間をかけて生み出された自然との合作である里山は生業とのかかわりで維持されてきたことを理解してもらった。またコリドー計画についても紹介しこれからの里山の存続が大切であることや将来の問題点についても話しあった。

**「自然との共生」の野外実習の下見**

実施日時 15・5・6 9：30～15：00  
 場所 市川市大町自然観察園  
 目的 長田谷津の環境・里山の生き物の確認。進め方・役割分担。タイムスケジュールの確認。  
 参加者 石井・海野・和波・湯本・遠坂・山田・国安



「自然との共生」

**「自然との共生」 - 里山の生き物たち 野外実習**

実施時期 15・5・22 9：30～14：00  
 場所 市川市大町自然観察園  
 受講者 35名  
 講師 石井桃子

アシスタント 海野・和波・湯本・遠坂 オブザーブ 渋谷・平尾・小橋・増田

スタート前に石井講師より自然観察園の環境・地形・地質・地史・流水・地下水などの説明があり以前谷津田として自然と共生の場であったときに思いを馳せ5班に分れて湿地の植物群落・動物など里山の生き物たちの観察を行った。

「ここ長田谷津の斜面の上は両側とも台地で海拔25～26m。台地と谷底の標高差は13～14mもある。台地部分では地表から下へ順に表土・関東ローム層・成田層が重なりこれに対し谷の部分には関東ローム層が全くなく谷の上流では水底に腐食質を含む泥がありその下に成田層がある。成田層の厚さは厚いところで30m以上ありおもに砂。ここでは斜面のすそや水路の水底のあちこちから地下水が湧き出ている。地下水面は二つあり下位水面は成田層、上位水面は関東ローム層になる。水質はPH7。水環境は汚染少なく本来の谷津の環境に近い状態。水が流れているため遷移があまり進まない環境も平家ホタルの発生に適している。想像図を使って谷津の成り立ちの説明。

縄文海進の頃はここは入り江でいまも貝の化石が出る。その後気温が少し下がって海が退き谷底の低地には植物が茂り現在の湿地の原形が出来た。数十年前は水田だった所である」

樹木  
 イサグサ・ハナハダ・ヤブウツギ・ハンノキ・ヤマハンノキ・サワタリ・ニガキ・エゴノキ・ツバナ・マユミ・ウグイスカグラ、ミズキ・クマシズキ・イシデ・トウカデ・ハリギリ・シシユ・エノキ・ムクノキ・アオハダなど

水生植物および山野草  
 オアサモ・フジバカマ・コウホネ・ミツガシラ・トクサ・ケルソウ・セリ・キツノホト・ツボスミレ・ハンゲショウ・サジメタカフイ・タガラシ・ミゾソバ・ノドウソク・イヌキナ・カサネ・カシバ・ハクマ・ハナハダ・コウワラビ・カワシヤ・ヒメシダ・ホトチャクソウ・ナルコユリ・ヤマナルコユリ・チゴユリ・ミスバショウ・ウキガラ・タイツグなど

動・虫・魚・鳥

モンキアゲル・ギンヤソ・セリ・ダ イモウセリ・ヒメワカガラムシ・エ  
ゴツルビ・トシガミ・ガガノホ・クサキ・カムシ・アワキムシ・アサ  
ジキカムシ・その幼虫・エゴノコアシ・チャバ 初オカムシ・カ  
ヒミ・シジ ユウカ・メジロ・コジユケイ・アカミガメ・アオガ イショウ  
ウガ 丸など

**「天然の薬と毒」**

実施日時 15・6・5 10:00~12:00  
会場 市川市市民会館 第一集会室  
受講者 40名  
講師 平尾信三  
庶務担当 和波・渋谷・海野・遠坂 オブザ  
ーブ 山田・小橋・増田・中野

主に野山に見られる植物を中心としてその薬用成分、毒作用および普通に見られる植物の薬効と代表的な薬用植物の利用部分、生薬名、それらを利用した漢方処方についての解説。又現在の医学でも使われている植物由来の薬剤やきのこ、動物由来の生薬についても簡単に触れ、さらに薬用植物で触れなかった代表的な有毒植物、カビ毒、キノコ中毒についても言及した。講師のふり返り「解説、資料作成を行ってみたい領域が広く解説が散漫になったと思う。テーマをもう少し絞り込んだほうが良いものになったと考える。又実物の乾燥薬草・薬草茶・薬草酒などを用意し興味をひきつける必要があったと思われる。黒焼きの方法、ヘビイチゴの利用法についての質問。

「レジュメ」

中国の本草および日本の本草・植物由来についての解説

**「天然の毒と薬」の野外実習の下見**

実施日時 6月16日(月) 10時~14時  
場所 検見川の東大緑地植物実験所  
参加者 平尾・山田・海野・御須・和波・渋谷・今井・和田・中野・平野・相川(東大演習林)・遠坂の森林インストラクターおよび緑地植物実験所の職員榎本さん総勢13名  
概要

午前中は薬学部の薬草園で平尾チーフ作成の薬効資料と指導により生薬植物の確認を行い午後は農学部の森林で樹木確認を行った後本番に備えての役割分担等実施体制を決めました。(以上報告:遠坂)

**「天然の薬と毒」野外実習**

実施日時:平成15年6月19日 10:00-14:00  
天候:晴れ時々曇り  
場所:検見川、東大薬学部附属薬用植物園、農学部緑地植物実験所  
受講者:39名  
講師:平尾信三  
アシスタント:遠坂、山田、海野、御須、渋谷、和波、今井 オブザーバー:増田  
概要

10:00-12:00: 薬用植物園見学  
初めに東大薬学部薬用植物園の折原先生より、薬用植物園について説明がなされ、農学部の試験場に隣接する形で約1,000坪の広さで、各種薬用植物が植えられ、温室も有している。薬学部は薬用植物園を置くことが義務づけられている。またカンゾウも2種(ロシアカンゾウ、ウラルカンゾウ)が植えられ、大きさに違いがあることに言及された。各班、約5名づつに分かれ、観察後、折原先生に再度、質問などに答えて戴くことにした。各班を担当したインストラクターより、園内、温室内を回りながら薬用植物の名前、薬効について説明がなされた。折原先生も適宜説明をされた。参加者にはニガキやカンゾウの根の味見をしてもらった。(観察した薬用植物のリストは下見の際に利用したものを参照の事)

最後に折原先生へ質問、答えを戴いた。栽培の目的は:学生に実際の薬用植物を見てもらうのが第一の目的で、研究をする目的とまた現在では輸入などの規制で入手が困難となっている植物の保存も目的としている。



「天然の毒と薬」

何種類くらいあるか：

350種類で他の薬草園の1000種以上と言った規模に比べると少ないと思われるのだが、雑草といわれる類のものは数に入れておらず、少ない数ではないと思う。

カンゾウは輸入が次第に少なくなってきており、日本での栽培も検討されている。いかに早く根を太くさせ、効率の良い収穫法も確立していかないといけない。

13:00-14:00

参加者で希望者は農学部緑地植物実験所の樹木をインストラクターとともに見て回った。

樹木リストは和波さんより報告を戴いたものをそのまま下に転載します。モクゲンジ、キササゲ、マサキの花などが見られ、樹木の種類も多く、参加された方は楽しまれたと思われます。

ヒノキ アカマツ テーダーマツ ストローブマツ  
 ヒメコマツ チョウセンゴヨウ モミ カラマツ  
 クロベ コウヨウザン メタセコイア 他  
 モクゲンジ(センダンバノボダイジュ 花) ムクロジ  
 トチノキ ベニバナトチノキ シナノキ ボダイジュ  
 ヘラノキ モクマオウ トチュウ カラタネオガタマ  
 オガタマノキ ユリノキ タイサンボク ホウノキ  
 シキミ ニッケイ ヤブニッケイ ロウバイ ヤマ  
 グルマ カツラ シマウリノキ(花) キササゲ(花)  
 アメリカキササゲ(花) ムクゲ カクレミノ ミズキ  
 ハクウンボク マルバチシャノキ ヒョウタンボク  
 ヤマモモ ホルトノキ オニグルミ シナサワグルミ  
 ハリエンジュ アオダモ ツルマサキ フウ モ  
 ミジバフウ サイカチ アカギ ナンキンハゼ ヤ  
 マハゼ ネムノキ セイヨウバクチノキ ウメモドキ  
 ヒメシャラ アキニレ ニワウルシ(シンジュ) ポポ  
 ー トサミズキ(?) シマサルスベリ サクラ各種  
 ツバキ各種(キンギョツバキを、含む) キブシ クヌ  
 ギ コナラ ウバメガシ アカガシ シラカシ  
 アラカシ スダジイ トウネズミモチ アオキ セ  
 ンダン アカメガシワ ヌルデ リンボク サルス  
 ベリ イスノキ イイギリ カキノキ アメリカデイ  
 ゴ(花) アジサイ モミジバスズカケ 他  
 イロハモミジ オオモミジ トウカエデ イタヤカエ  
 デ ハウチワカエデ カラコギカエデ ヒトツバカ  
 エデ ミツデカエデ トネリコバノカエデ(ネグンドカ

エデ) カジカエデ チドリノキ アサノハカエデ  
 ウリハダカエデ(?)又はホソエカエデ(?)

キノコ類は、イタチタケ、コフキサルノコシカケ、マンネンタケが見られたが、少なかった。  
 (報告：平尾)

## 野外講座(担当幹事：望月)

### 平成15年度第1回

タイトル 伊予が岳と大山千枚田

テーマ 南房総の自然

実施日 平成15年4月2日(水)

1.朝5時の気象情報で降水確率午前50%午後70%であったが、大雨にはならないと判断し、伊予ヶ岳の鎖場登頂部分のみ中止すれば他は実施可能と判断して決行と決める。

2.参加者=1名前日キャンセルがあり、22名が参加(内1名は野間車に同乗、現地参加扱い)。

3.スタッフ=チーフ(遠坂、野間)、アシスタント(大沼、村木、和波)、オブザーバー(高橋)

4.緊急用車両=野間車

5.NTT前7時30分出発予定のところ、7時30分になっても団地交通バスが来ないので電話したところ寝坊して今から行きますとのこと。20分遅刻で7時50分出発。

この失態については団地交通から始末書を取りつける予定。

6.松ヶ丘ICから入り、市原SAで休憩、木更津南ICを出て、国指定「竹岡の光り藻」を見学。海食洞穴内の湧水中に鞭毛藻類の1種であるヒカリモが発生し、菜の花が咲く頃水面が黄金色に輝く(房総の生物P282)。自ら発光するのではなく外からの光線を受けて黄金色を発する蛍光の1種と思われる。

写真を撮ると目で見たより何倍も強く黄金色に輝いて見える(フラッシュのため)。お試しあれ。なお、館山市沼のサンゴ、沼のビヤクシンへ行く途中にも数箇所同様のヒカリモ発生洞穴がある。

7.富山町平群天神でバスを降り、伊予ヶ岳を見晴台まで登る。途中、ヒガンマムシグサ、ウラシマソウ、シュンラン、ヤブカンゾウ(新葉、花はまだ)、ホウチャクソウ、ツルカノコソウ(非

常に多い) ヤマハタザオ(花卉4枚のアブリナ科の白花。これを発見した参加者が後日再調査に行った結果、イワハタザオではないかとのこと。) キランソウ、タチツボスミレ、キジムシロなどの花が見られた。ヒサカキも開花中で例のガス漏れ臭を漂わせていた。見晴台から霧に霞んだ頂上の手すりを眺め、鎖場の取り付きまで行って見て貰ったが、全員異議なく登頂を諦め、下山する。この間幸いに雨足が弱まる。用意したザイル、シュリング、カラビナ、エイト環の出番なし。

8. 富山町平久里中でバスを降り、地すべり現場を見せて嶺岡帯の地すべりを説明後、採石場跡へ登り蛇紋岩を観察して嶺岡帯の特異な地質を説明。

9. 県乳牛研究センター・酪農の里で昼食。資料館では持ち込み飲食が許されず、研究センター事務所に懇請したところ親切にも会議室を使わせて下さる。ここで、和波インストラクターが多大な努力で用意した資料を駆使して、午後から訪ねる大山不動尊とそこにある波の彫刻及びそれを彫った通称「波の伊八」こと武志伊八郎信由(安房の三名工の一人、波を彫らせたら当代随一、伊八には勝てないので関東では波を彫るなと言われた)について説明、更に伊八の波に影響されたと言われる北斎の富嶽36景「神奈川沖浪裏」それがヨーロッパ画壇や音楽の世界に衝撃を与えドビュッシーの「ラ・メール」が生れたこと(註=海野さんによると、「ラ・メール」のCDジャケットには北斎の「神奈川沖浪裏」が描かれているとのこと)なお4月8日から千葉市美術館で浮世絵展が始まり「神奈川沖浪裏」も展示されることなどが紹介された。

10. 嶺岡県有林のヒノキ2段林を見て説明。このあたりにはヒメウズ、シャガ、モミジイチゴが開花中。

11. 大山千枚田を見せて説明。殆どの棚田に水が湛えられていた。この地方に棚田が多いのも嶺岡帯が破碎帯であること、粘土質であることが影響している。「棚田倶楽部」で休憩。註=この少し奥に加藤登紀子の亡夫藤本氏が主宰した「自然王国」があるが小型車でないと行けない。

12. 大山不動尊にお参りし向拝の伊八の彫刻を見る。山門の四周にも波の彫刻があり、資料には出ていないが伊八の彫りによく似ている。(後で和波さんが調べた結果、やはり伊八の作品と分かる)

13. 参道を下り、参道沿いの県指定バクチノキ群生を観察。付近一帯に一面の実生幼木が見られた。

14. 戻って「みんなみの里」に寄り買い物休憩。

15. 15時20分出発、高速道路を使わず410号と裏道を通って16時45分NTT前着、解散。終日雨に降られたが無事終了。(報告:野間)

### 平成15年度第2回

タイトル:イワタバコ咲く初夏の清和県民の森  
テーマ:「房総の森のルーツに触れる」

「房総の森のルーツに触れる」をメインテーマに据えて、当該コースの植物や森林を、地形と植物(土地極相)むかしの気候と植物(「寸詰まり現象」)人の営みと植物(二次林)の三つのポイントから観察・解説した。

開催期日:平成15年6月21日(土) 天気:晴れ

フィールド:清和県民の森遊歩道「旅名コース」  
約5.5km

1.参加者:44名(千葉集合43名、現地集合1名)(DMによるリピーター34名・知人紹介等5名・朝日新聞による参加:5名)

キャンセル及びキャンセル待ち11名

2.スタッフ:[チーフ]:望月、和波、[アシスト]小林、高橋、中野、吉田 [オブザーバー]相川

3.緊急時対策:救急用品及びザイル携帯、清和県民の森管理事務所事前連絡

4.日 程:7:30 スタッフ集合、8:00 参加者集合(JR千葉駅東口NTT前)

8:10 出発 館山道木更津南IC 9:40~10:00 清和自然休養村・休憩 10:10~10:20 旅名コース入り口・体操・出発 11:10~11:20 笠石 12:20~13:00 寂光不動・昼食 13:50 旅名集落・バス乗車 14:00~15:00 「木のふるさと館」休憩・周辺散策 館山道君津IC 16:00~16:15 館山道市原SA・休憩 16:30 千葉帰着・解散

## 5. 内 容 :

往路車中にて配布した資料をもとに、清和県民の森の紹介、同地区の人と森のかかわり、千葉県地図を使って周辺の地質や地形の説明、そして、「旅名コース」における観察のポイントを説明した。

コースに入る前に準備体操を行い、肉体の準備とともに、事故防止への精神的対応を促した。

全体を5班に分け、それぞれインストラクターが引率し、ラストに2名のスタッフを配置した。同コースは、前半は岩が多く両側が切れ落ちた急峻な尾根道で、奇岩「笠石」があり、次第に地形が緩くなる。後半は林道旅名線となり、林道脇の岩場には寂光不動尊が祭られている。ハイキングコースとしては所要時間2時間弱のコースだが、森林観察と安全確保に配慮し、ゆっくりしたペースで3時間程度の時間をかけて歩いた。

コースは、民営の観光農園内から始まる。当日は、栗の花盛り、足元はヒメジオンが花盛りである。尾根への上りでは、同農園経営オフロードコースと重なり、赤い地肌むきだしで非常に滑りやすい。足元に注意するよう促した。尾根上部になると、土地極相的要素と思われるイヌツゲやツクバネウツギが現れ始める。ツクバネウツギは既に花を終わって、衝羽根型のガクが目立っている。

岩場が増えてくると、ネズミサシやツクバネ、ツガやモミ(いずれもあまり大きくない)、アセビ、ネジキなどが目立ってくる。いずれも山地性でかつ尾根筋の貧栄養地に生育する植物である。ネジキは先週6/13の下見では開花中だったが、この日はほとんど花が終わっていた。この他、コナラやウラジロガシも目立つ。コース上の岩は、日あたりの良い場所ではすっかり乾いていたが、日影ではなお滑りやすく、足元の注意を促した。林床には時折り、イチヤクソウや同科の腐生植物シャクジョウソウが出現する。4月の下見では、やはり同科の腐生植物のギンリョウソウが見られた。

奇岩「笠石」を過ぎてしばらくすると、周辺は次第に緩傾斜地が増え始め、スタジイやアカガシなどを中心とした萌芽林となる。さらに主

尾根に合流する頃よりスギ・ヒノキ植栽林が現れる。地形と植生、地形と土地利用の関係が如実に観察される。スギ林ではヤマアジサイが開花していた。さらに進むと、大岩にへばりついた、たくさんのイワタバコの可憐な花が、今や盛りと目を楽しませてくれて、たくさんの歓声が聞かれた。「看板に偽りなし」と、一安堵の思いである。

林道に出て、寂光不動付近で昼食とする。これより旅名集落へは、赤い実をたわわに実らせたドクウツギや「ウツギ」アレコレ、パイオニア植物などに目を向けながら、下った。

「木のふるさと館」で小休憩の後、班毎に周辺を散策する。先週の下見で開花していたウメガサソウは既に花後となり、ツチアケビは黄色の花がとても美しく、我々の目を楽しませてくれた。

4月の第1回目、6月の第2回目の下見とも小雨模様で、当日も雨の季節だけに、充分雨天を視野に入れての企画だった。しかし、開催当日は暑いほどの天候に恵まれ、足元の悪いコースながら、幸い事故もなく終了することができた。参加者にも概ね好評だったようである。

(報告:望月)

## 上総試験地作業(担当幹事:野間)

### 4月度

平成15年4月8日(火) 9時30分~15時  
於上総試験地

参加者=小林、和田、和波、野間、計4名  
作業内容=降ったり止んだりのなか、スギ採穂園断幹。午前中3本足脚立を使うも、長すぎて使い辛く、午後は低い4本足脚立と1本梯子を使用。

試験地側のご好意で、昼休みにタケノコ掘り実習。まだ地表には頭を出しておらず、足で探っで見つける。和田さんの大活躍で1人2本づつ実習成果を持ち帰る。

平成15年4月22日(火)9時30分~15時  
於上総試験地

参加者=海野、坂本、山田、和田、野間、計5名  
作業内容=スギ採穂園の断幹(1本梯子使用)。

採穂園なので、下枝を切るわけにいかず、密生した枝をかいくぐって芯止め部まで顔を出すのが至難。前回の断幹から5年くらい経っているらしく腕の太さ大の萌芽枝が10本ほど台スギ状に伸びており、これらを手鋸で切るわけであるが上記のように身動き困難のため不十分な姿勢で鋸を使うのでなかなか大変な作業。おまけに光り不足で枯れた葉がピッシリと付いていて首筋などから入ってくる。鋸はヤニが付いて動きにくくなる。私の計測では1本処理するのに約15分かかった。

#### 《タケノコ実習》

前回より頭の先を地上に僅かに出したものが多く、収穫も多い。お土産たくさん。昼休みに遠藤さんが焚き火の中に採りたてのタケノコを入れて焼き、皮をむいて下さったものを頂く。何も味付けせずに食べたが最高の味。

#### 5月度

平成15年5月13日(火) 9時30分～15時 於上総試験地

参加者 = 国安、小林、坂本、遠坂、中野、山田、和波、野間、計8名

作業内容 = スギ採穂園断幹(国安、小林、中野、山田、和波、1本梯子使用)、スギ苗新植地下刈り(遠坂、鎌使用)、スギ採穂園不要木伐採片付け(坂本、野間、チェンソー使用)。は完了、およびは未了。

#### 《タケノコ掘り実習》

ハチクの筍が最盛期で、作業終了後、竹林の外へ頭を出した筍を沢山掘って各自持ち帰る。モウソウは末期で少し採れる。

#### 《遠藤さんからのご提案》

”試験地内の運営(作業場所、内容、道具の用意、調査の補助、調査のアイデアなど)について、作業班の方で何か意見があれば、検討してはどうかと考えました。”

そこで早速枝打ち鋸10挺を試験地で用意して頂けますかとお願ひしたところ、OKが出た。

平成15年5月27日(火) 9時30分～15時 於上総試験地

参加者 = 川崎、小林、坂本、和田、和波、野間、計6名

作業内容 = 幼齢林の下刈り、通路の下刈り。鎌、刈り払い機、ハンマーナイフモアを使用。曇り空で気温も高くなく作業が捗る。草に埋もれていた植栽木が嬉しそうに姿を現わすのを見るのはなんとも言えずいいものである。これが下刈りの醍醐味か。

#### 6月度

平成15年6月10日(火) 9時30分～15時 於上総試験地

参加者 = 海野、坂本、高橋、坪田、和田、和波、野間、計7名

作業内容 = 草刈り(刈払い機、ハンマーナイフモア使用)及びスギ採穂園捕虫テープはずし。

#### <捕虫テープ>

スギ採穂園のスギの母樹にスギカミキリ幼虫の穿孔食害が見られるので、毎年12月幹に捕虫テープを巻き成虫となって幹から出てくるところを捕殺している。捕虫テープは裏面に粘着剤が塗布されており、幹を昇り降りするスギカミキリ成虫の背中がくっついて逃げられなくなる仕組み。羽化が終った6月にこのテープをはずして捕殺頭数を調べる。過去に1本の母樹で50匹くっついていた例もあるが、今回は平均1～2匹程度。

#### <次回予定>

6月24日(火) 樹木名札塗装、スギ着花抑制剤注入試験手伝い。

### もりこん(担当幹事:寺嶋)

「もりこん」へどうぞ

「もりこん」は、「森に親しむ懇談会」です。原則として、月1回、市川公民館で18:45から開催しています。千葉県森林インストラクター会が主催する、どなたでも参加できる懇談会で、参加費は200円です。会員には、メールまたはハガキで、毎月お知らせが届きます。8月と1月、すなわち、盆と正月はお休みにしています。

次回、7月で足掛け9年目に入りますが、最近は、「連載テーマ」と「トピックス」、「特別企画」を柱にして企画しています。12月は、「楽しくてためになる特別企画忘年会」を予定して

いますので御期待ください。

4月(もりこん33)

3年間にわたる連載テーマ：森の生活 第6話「カワネズミ」野間元彦さん。

カワネズミは、モグラやハリネズミなどと近縁な原始的な哺乳類です。日本では、本州、四国、九州の山間の清流に生息していますが、生態もよく調査されないまま、自然な川岸の消失とともに姿を消していっています。懇談の中で、ハリネズミの毛の特に長いものが、漆工芸の「蒔絵」の絵筆に使える唯一の素材であることが話題になり、参加者の興味を惹きました。2次会かまどや。

5月(もりこん34)

4月の「もりこん」にはじめて参加された、平成14年度会員である藤田和孝さんに、いきなり話題提供を御願いしました。藤田さんは、山歩きに慣れ親しんでこられ樹木医でもあります。森林インストラクターとなって、「新しい感覚でふれる自然」をテーマに話されました。もりこんなどで得た、自分にとっては真新しい情報、見方で、自然に触れると、新鮮な驚きがあり、世界が広がる、という楽しい体験談でした。

そのほか、トピックス(寺嶋担当)は、第54回全国植樹祭清和県民の森の企画の紹介。「ちばふれあいのみどり100戦」の紹介。2次会かまどや。

6月(もりこん35)

特別企画で6月15日(日)に、船橋のウッディ・小林工房を訪ねました。

ウッディ・小林こと、小林正幸氏は平成13年度会員ですが、10年以上のベテラン会員の雰囲気醸し出しています。ムクノキ(木工の木)が繁る小林邸の隣がウッディ小林工房。工房前の幅3mの私道には、各種のタケがプランターに植栽されている。これが、クラフトの材料にもなります。小林さんが、クラフトを始めたのは、趣味の釣り竿づくりからとのこと。和竿だけでなく、欧米のフィッシング用の六角形の竹竿も製作している。次に、釣りをするための、カヌーを2艘製作し、工房の天井に吊り下げられている。工房は、20名ぐらいは十分入



もりこん35：ウッディ工房での竹笛製作風景。月2回開催の木工教室では、子どもたちでもすぐにできる小物が多いが、釣竿づくりも教えたいとのこと。タケを活用したものとしては、アズマネザサ・ヤダケ・メダケ・マダケ・モウソウチクなど使い分けて、釣り竿、花器、各種竹笛、ケーナ、尺八などいろいろ。

小林氏は近くの「どんぐりの森」(約4ヘクタールの私有の雑木林)の会の副会長で、市の助成を受けて、森づくり活動をされている。将来、工房で、クラフトに限らずいろいろな講座を開催したり、情報発信の拠点とすることも構想中。参加者は、小林氏の指導で竹笛を製作、お土産として持ち帰った。

また、当日、参加者の勝川氏は、ハンドルを回すと木工旋盤で製作したたくさんの人形が精巧に動いて楽器を演奏する見事な作品、糸鋸で製作した47都道府県はめ込みの緑の日本地図などを車で持ち込み披露され、参加者一同大いに感心した。2次会ウッディ小林工房で。

## その他

春の東大千葉演習林パトロール

恒例の東大千葉演習林の公開が、4月19日(土)、20日(日)に行われました。FICからは、19日に町原・遠坂・望月・菅野・元岡・今井、20日に国安・大沼・鈴木・鳥海・小林・



内山の各氏、合計12名が参加。森の案内やマナー指導などを行いました。

## FICホームページのご案内



千葉県森林インストラクター会のホームページをご存知ですか？ 当会では、活動の予定や記録などをホームページ

<http://www.chiba-shinrin-instructor.com/>で発信しています。まだ開設されて間もないこともあって、準備中のコンテンツや不十分なこともたくさんありますが、これから徐々に発展・充実させていきますので、ご期待ください。

このホームページの特徴は、会員や森林に興味を持つ方々から提供された情報で、できていることです。ですから、皆さんからの投稿が不可欠です。何か「役立ちそうなこと」「面白そうなこと」、「楽しかったこと」、「自慢したいこと」、「お知らせしたいこと」などなど、どんなことでもOK。

皆の力でホームページをもっともっと内容を充実させて、そしてカッコよくしましょう。

投稿は、鈴木(snowwind@silver.interq.or.jp)宛お願いします。待ってます。

### 主なコンテンツ

#### 「活動の予定」

野外講座や昼の講座などの千葉県森林インストラクター会の主要事業の予定です。

#### 「活動の記録」

上記活動の記録です。

#### 「役立って面白い森の豆知識」

森の中で役に立つヒント集(の予定、未だ準備中) 皆さん一人ひとりの知識や情報の共有化をします。という訳で、このコンテンツは、皆さんから色々知識や情報を提供していただかないと成立しないところです。投稿お願いします。

[http://www.](http://www.chiba-shinrin-instructor.com/)

[chiba-shinrin-instructor.com/](http://www.chiba-shinrin-instructor.com/)

#### 「最近のトピックス」

題名のとおり、最近の印象深いことや面白かったことを紹介しています。

#### 「会のご案内」

千葉県森林インストラクター会って何？ というページです。

#### 「掲示板」

誰もが投稿できる掲示板です。写真の貼り付けができますのでドンドン投稿して下さい。ここが活発になるとホームページが元気になります。今後の改訂予定

#### 「今月の見どころ」

毎月、注目ポイント、森林や樹木の注目点を紹介します。(が、この内容も皆さんからの投稿で構成されるものです。今月は、「この森で何が見れる」「この木にこんな花が咲く、こんな実がなる」というような情報を発信したいので、皆さんからの提供をお願いします。

#### 「会員専用ページ」

会員専用の掲示板や情報コーナーをつくります。一般に公開する前の段階で会員同士の情報交換や議論ができるようにします。写真も貼り付けられるようにしますので、メーリングリストとの併用で会と会員の活動を支援します。(もししばらくお待ちください。)

## 全国会 ML にもご参加を！

F I Cでは、連絡事項や活動報告などにメーリングリスト(M L)を積極的に活用しています。同様に全国会のM Lも上手に活用したいもの。まだ未加入の方は、下記の要領でお申し込みください。

申込み先 = [Forest-IJ-owner@egroups.co.jp](mailto:Forest-IJ-owner@egroups.co.jp)

「M L参加希望」と書き、「氏名」「森林インストラクター登録番号」を記入して、メールする。

なお、全国会のHPは次の通りです。

<http://www.shinrin-instructor.org/>

..... F I Cふれあいの森構想 .....

自他共に「F I Cふれあいの森」構想の推進者と認める國安さんが、千葉森林管理事務所（旧千葉営林署）と交渉。久留里・城山国有林が候補地としてあがってきました。千葉森林管理事務所側から、戸村上席調整官（次長）・地元上総森林事務所永井森林官など5名、F I Cからは、町原・菅野・野間・望月・和波・遠坂・鳥海・小池・高橋・湯本・國安の11名、総勢16名が参加、下見を行いました。ところが、「地形図から想定される以上の急斜地で、お客さんを案内できるルートや根拠地を見つけることができませんでした」（國安さん）

國安さんがさらに交渉をすすめ、千葉森林管理事務所で神長所長から「『ふれあいの森』の用地として、さきの久留里にかえ鹿野山の国有林で2ヘクタールほどの広葉樹林地を予定している。については現地を確認のうえ手続きをしてもらえば実現が可能と思う」との発言を引き出すことに成功しました。7月14日（月）に現地下見を実施。結果次第では、「F I Cふれあいの森」の実現がグーンと近づいてきます。

**「ふれあいの森」予定地** 君津市・桃ノ井作（もものいさく）国有林大字馬登（まのぼり）95林班る1小班の内、約2ha、標高150m~200m、広葉樹若齢林。内山緑地建設（株）-樹芸林業千葉試験場-隣接地

## 今後の予定

### 【昼の講座】

テーマ「森と林」7月3日（木）10:00~12:00

会場 市川市市民会館 第一集会室

講師 湯本信康

特別講座「きのこ探し」9月実施の予定

会場 白井町神神廻の森

講師 平尾信三

15年度後期昼の講座企画会議

実施日 7月3日（木）12:00~13:30

会場 市川中央公民館

### 【森に親しむ野外活動（平成15年度）】

第3回「奥形須の湿原と冷温帯林を歩く・沼原湿原」

期日：7月18日（金）

定員：33名

担当：山田・湯本

第4回 植生の遷移と垂直分布をみる——

「富士お中道から樹海へ」

期日：9月2日（火）

募集人員など未定 \*6月18日に下見後決定

担当：町原 和田

### 【上総試験地作業】

毎月第2・第4火曜日に活動。この時期の作業内容は、草刈り、不要木の伐採、各種試験調査の手伝い、樹木名札作成取り付け、など。参加ご希望の方は野間までご連絡下さい。

### 【もりこん】

7月17日（木）（もりこん36）の予定

新連載テーマ：野鳥 - 謎の行動 - 第1話

「托卵」中野達也さんです。中野さんには、「野鳥 - 謎の行動 - 」と題して、第1話 托卵、第2話 渡り、混群、第3話 囀り、第4話 野鳥の囀る森 など、2年ぐらいかけてお願いする予定です。もう一つの新連載テーマ：「ちばふれあいの森100戦」レポートを始めます。第1回は、海野知子さんです。どこの森のレポートか、お楽しみです。この連載は、誰が担当するか決めません。謝礼もありません。次回は、あなたの番かもしれません。

トピックスは、「里山条例の制定について」を予定しており、盛りだくさんです。

8月は夏休みです

9月18日（木）（もりこん37）の予定

4年目になる連載テーマ：「救急法」研修です。講師は、おなじみの湯上昇さん（東京消防庁勤務）です。森林インストラクターの必須継続テーマです。ふるって御参加ください。

### 【子ども樹木博士】

8月3日（日）於みつわ台

8月21日（木）於久留里城周辺の国有林

### 千葉県森林インストラクター会会報

2003年7月1日 発行第5号

年4回発行予定（1月・4月・7月・10月）

発行人：町原 亨

編集スタッフ：今井しのぶ、鳥海 翔

連絡先（町原）：船橋市夏見台 4-19-1-406

TEL&FAX：047-439-3016 〒273-0866

eメール：machihara@mx5.ttcn.ne.jp